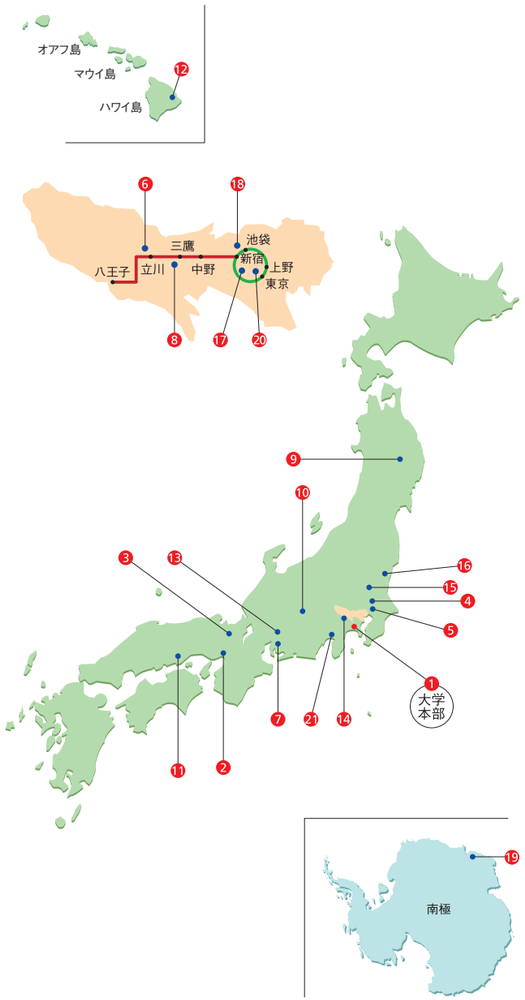
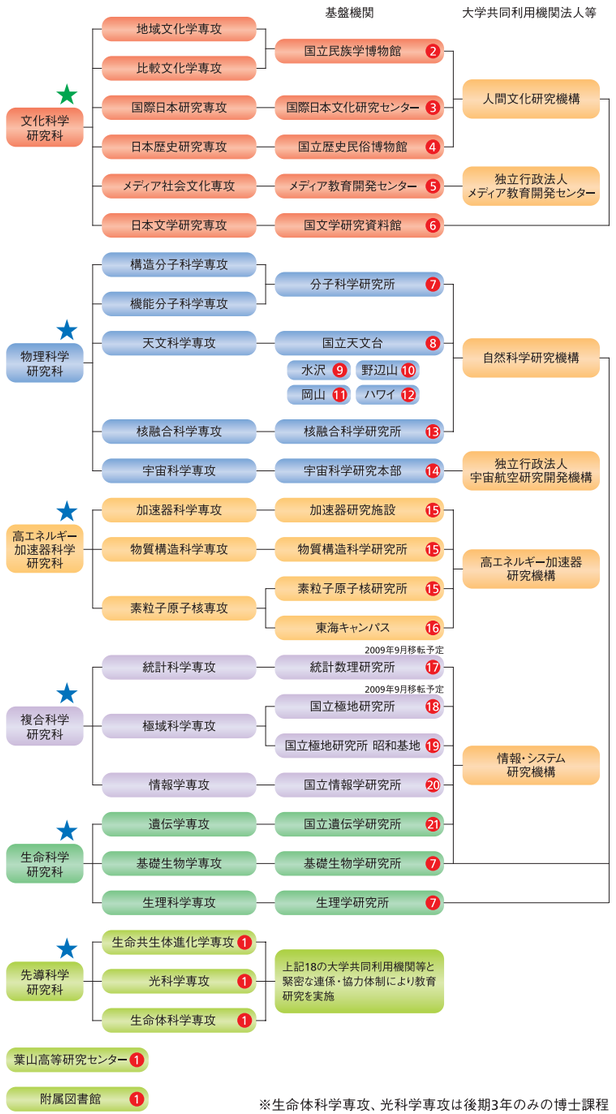
総合研究大学院大学の概要

総合研究大学院大学（総研大）の基盤は大学共同利用機関です。大学共同利用機関は日本が世界に誇るトップレベルの研究組織で、各種の大型の実験・観測施設および学術資料を保有しています。国内外の大学研究者が共同で利用できる国際的な研究拠点でもあり、多様な研究者集団と接する研究環境がつくられています。

総研大では、学生1人に対し教員数は2.5人という充実した体制で博士教育をおこなっており、その期間についても5年一貫のフレキシブルな制度を取り入れています。



★ 後期3年のみの博士課程
★ 5年一貫制博士課程／後期3年のみの博士課程



※生命体科学専攻、光科学専攻は後期3年のみの博士課程

SOKENDAIトピックス 2007年8月～2008年2月

※トピックスの詳細はhttp://www.soken.ac.jp/education/journal/no.13/no.13.html で紹介しています。

- 日本歴史研究専攻 4　現存する最古の洛中洛外図屏風「歴博甲本」について、制作事情や作者などを解明した。
- 構造分子科学専攻 7　窒素分子の3重結合を切断する分子性金属ヒドリド種の合成に、川口博之准教授らが成功。
- 機能分子科学専攻 7　一次元有機導体における超高圧下の異常超伝導相を、中村敏和准教授が東京大学との共同研究で発見した。
- 天文科学専攻 12　すばる望遠鏡、おうし座FN星のまわりに、惑星が生まれる現場となる原始惑星系円盤を直接撮像することに成功した。
- 核融合科学専攻 13　ヘリカル磁場閉じ込めプラズマの乱流輸送低減を、シミュレーションで実証することに初めて成功した。
- 宇宙科学専攻 14　太陽観測衛星「ひので」による成果9編の論文が12月7日発行の米科学誌*Science*誌で特集され、「ひので」が撮影した画像が表紙を飾った。
- 素粒子原子核専攻 15　ブラックホールの内部構造、解明へ―― 超弦理論の予測をスパコンで検証した。
- 統計科学専攻 17　アカデミアシニカ(台湾)との学術交流協定に基づき、第1回ジョイントミーティングを開催した。
- 極域科学専攻 18　南極で回収された隕石の研究から、山口亮助教のグループが太陽系初期の物質進化の過程の一端を明らかにした。
- 情報学専攻 20　ロボットが人間の行動を理解し模倣するため、感覚動作パターンを抽象化し自ら修正する手法を、稲邑哲也准教授が開発した。
- 遺伝学専攻 21　佐々木裕之教授と東北大学の松居靖久教授による哺乳類の生殖細胞とエピジェネティクスに関する総説が*Nature Reviews Genetics*誌に掲載された。
- 基礎生物学専攻 7　陸上植物の進化過程で重要な位置を占めるヒメツリガネゴケのゲノムが解読された。
- 生理科学専攻 7　脊髄損傷によって指先が動かなくなったニホンザルの回復にかかわる脳の部位が変化していくことを、伊佐正教授のグループが突き止めた（2007年12月の*Science*誌に掲載）。
- 生命体科学専攻 1　アゲハの色覚が紫外線を含む4原色であることを、蟻川謙太郎教授らが行動実験で証明。無脊椎動物では初のことである。